

県中教育

随 想



「匠に学ぶ」

県中教育事務所 業務次長

本 田 樹

今年、平城遷都千三百年祭のある年との報道が目につきます。そこで、思い出すのが、法隆寺に見られる木造建築の美しさです。何百年もの間、揺るぎない偉容を誇っているからです。そこで、こんな話を。

【木に癖有り】

- ・ 木は、自然の中で動けないから生き延びていくためには、それなりに、土地や風向き日当たりなどの状況に応じて自分を合わせて生きています。そこに癖ができる。
- ・ 木は正直で千年経つても右ねじは右にねじまがる。
- ・ 木の癖は、木の育った環境で決まってくる。その癖を見抜かなくてはならない。

【木を知るには土を知れ】
・ 自然の木と植えられて大事

に育てられた木では、当然違
いがある。

- ・ 自然の木は強い。実が落ちて芽が出せない隙間、隙間ができる。一斉に芽を出す。少しでも早く芽を出し、日に当たって大きくなると隣に勝てない。隣の奴に負けてしまう。
- ・ 何百年もの間、風や雨や雪にじつと我慢して勝ち抜いた木は強い。
- ・ 土壌は、腐植土や厚い粘土層があり、地下水はできるだけ低い所を流れ、木は精一杯勝ち抜こうとする。
- ・ 良く育った木でも、切る時期を間違えたら使い物にならない。昔から切る月は、木六、竹八月（旧暦）である。

これは、冒頭に述べた薬師寺の宮大工棟梁である西岡常一氏が語った法隆寺伝説の口伝の一部です。そして、『堂

編集・発行
福島県教育庁
県中教育事務所
発行責任者
佐藤 馨
編集協力
県中市町村教委連各支会
県中各地区小中学校長協議会

塔の木組みは寸法で組まずに、木の癖で組め」と締めくくっています。
それ故に、あの偉容が保たれているのでしょう。

この話にふれたとき、まさに教育にも相通するものがあると感じました。

人には無くても七癖がありま
す。子どもも同様、三十人学級であるなら二百十通りの癖があるわけで、その癖を見抜けなくては育てることは困難でしょう。

また、育った環境も多種多様あります。
それらを統合すると、教育する時期を見誤ってはならないということですね。

総じて、『子の教育は理屈で行わずに、子の癖で行え』
とでも言えるかもしれませ
ん。



学校五日制の行き先

〜子どもあつての教師 教師あつての子ども〜
県中教育事務所 学校教育課長 矢吹伸一

平成四年度、五年度と学校五日制の実施に向けた調査研究指定校に勤務した。この学校は、他校に先駆け、月二回程度の土曜休業日を設けていた。学校五日制が実現されても子どもたちの生活リズムが今まで同様きちんと保たれ、学力低下もなく、校外には子どもたちの豊かな体験の場が確保され、子どもたち自らが社会の変化に的確に対応できるということを検証するため、研究調査である。

土曜休業日には奉仕活動、自然保護活動などを企画し、子どもたちは土曜休業の過ごし方を計画し、五日制だよりを発行して、校外の様々なイベントを紹介したりした。しかしながら、この企画もしばらく経つと、土曜体育館開放などの事業は、講師一人に見童一人というような状況にもなった。子どもたちが休日の自分の居場所を自ら見つけられたのだと考えることもできたのだが、何かこの調査に積然としない思いがあった。

学校五日制が出てきた本来の理由は、いうまでもなく、企業の週二日制を教師に及ぼそうというものであるから大人の論理からのものである。学校という組織に大人と子どもがいるため、企業に比し問題が複雑になったが、整理すれば、問題は至極明快なはずである。大人の側から考えるか、子どもの側から考えるかの違いであり、学校教育上のメリットを説かないと制度導入の目的が見えてこない。学校五日制導入にあたって議論されたことは、年間授業時数は減らさないと、教育課程を五日制にあつたものに改訂するとか、学力低下は絶対防ぎとつたたぐいのもの、学校教育にとつてのメリットや効果・目的意識が薄れていた。『社会のすう勢』というお題目だけで、教育施策が論じられては学校現場は混乱するばかりである。

学校五日制の実現で、その効果は授業に反映されてきたのだから、子ども豊かな心の成長は図れたのだろうか、学力の維持はどうか、問題は子どもが学校でどういうプラッスを享受することができたのかを検証しないと新たなよい制度は生まれない。

学校五日制の導入から十七年。東京都は土曜日の授業実施に踏み切るといふ。学力向上対策だけの学校六日制の復活だろうか。制度、規則は人を生かしてこそその約束事である。大人と子どもが混在する教育の場だからこそ世の中に右ならぬ大人の側の論理ではなく、子どもの側からの目線も入れ、論じられなければならない。

農業高校を核とした豊かな食育体験（鏡石二小・鏡石中・岩瀬農業高校）

鏡石町東部に位置する三校（県立岩瀬農業高校、鏡石町立鏡石中学校、鏡石町立第二小学校）は、比較的近距离にあり、交流しやすい環境にあります。

今年度、県の指定を受けて三校で行った「岩瀬農業高校と連携した豊かな食育体験事業」を紹介します。

ねらい

食育体験を通して、栽培の喜びや旬の食材のおいしさを味わい、豊かな食生活を実践する力を養う。

食に関わる人への感謝の心や協力・奉仕・責任等の好ましい社会態度を育てる。

活動の様子

《岩瀬農業高校と鏡石二小》

- 六月、三年生が、園芸科学科の生徒に教わりながらとうもろこしの種まき。
- 八月、二百本のとうもろこしを収穫し試食。とても甘くておいしい。茹でたてを高校生や農園でお世話していただいた地域の方々へ届ける。全校で食べた給食の「とうもろこし入り夏野菜カレー」は大好評であった。

九月、高校生が、種から育てた白菜の苗を六年生が移植。水やり、虫取り、追肥などをして大事に育てる。

十一月、高校生と一緒に白菜七十株を収穫。大ききずつしり重い。全児童（縦

割り班）と高校生、保護者、教師がグループに分かれ、中庭において盛大ないも煮会を実施。メニューはとん汁と焼きいも。交流しながら楽しいひとときを過ごす。

白菜はとん汁に使用。残った白菜は、十二月の給食材料として使用した。

《岩瀬農業高校と鏡石中》

- 九月、岩瀬農業高校への進学を希望している三年生二十一名が、食品科学科二年生の指導のもと、食品加工の体験を行う。食品加工実習室において、高校生に作り方を教わりながら乳飲料とマドレーヌ作りをした。完成したマドレーヌは、後日中学校に届けられ、給食などの時間に三年生全員で試食した。

終わりに

子どもたちは、育てる苦労、作る楽しさだけでなく、その過程の楽しさと喜びも味わいました。さらに、食べる幸せを感じ、食への感謝の気持ちを大きく育みました。また、高校生の熱心さ、児童生徒の真剣さ、教える教わるという素晴らしい人間関係の構築も、この事業で得た宝です。



＜白菜の苗植え体験＞
関係の構築も、この事業で得た宝です。

地域教育相談推進事業（巡回相談）について

本事業は、特別な支援を必要とする子どもの特性理解や、授業づくりの視点、あるいはケータ会議や校内委員会の運営等、幼稚園や学校の要請に応じた、特別支援学校の教諭が巡回相談員として訪問し、各学校で抱える課題解決に向けて支援を行っています。平成二十一年十二月現在で、のべ二一五件の依頼が寄せられました。

本事業を活用した学校等からは、「専門的なアドバイスをいただくことができ、子どもの特性理解と授業改善に役立てることができた。」「保護者を交えた懇談で、互いに必要なことを整理する機会になった。」などの感想をいただきました。

一方で、特別支援教育に関する教員の専門性の向上、個別の教育支援計画等の作成を含めた校内支援体制の整備などの課題も寄せられています。今後も各学校等の課題やニーズに応じた支援に努めていきたいと考えます。そして、支援した内容の自校化を図っていただき、障がいのある子どもたちが、「地域で共に学び、共に生きる」ための環境づくりに生かしていただきたいと思います。

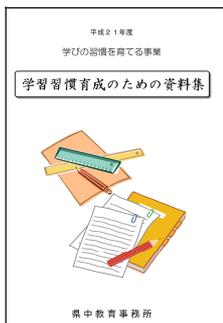
学校教育課（指導担当）からのお知らせ

「教育課程編成のための資料」を作成し、十一月十七日付けで各学校に一部送付いたしました。「授業の工夫改善」「思考力・判断力・表現力育成のための手立て」について、各教科領域ごとに記載しました。教育課程編成や日頃の授業改善のために活用ください。



「学びの習慣を育てる事業」の学校訪問支援や要請訪問等において提供してまいりました資料を「学習習慣育成のための資料集」としてまとめ、一月下旬に配付しました。

各学校における「児童生徒の学習習慣育成」「授業及び校内研修の充実」等に活用ください。



心肺蘇生法研修用のゲーム形式や、外国語活動、特別支援教育、食育に関する指導資料や書籍等の貸し出しを行っています。ご活用ください。詳しくは当事務所ホームページをご覧ください。
<http://www.kenchu-eo.fks.ed.jp/>

道徳教育実践研究事業
郡山市立桜小学校

生徒指導総合連携推進事業
小野町立小野中学校

本校は、平成21・22年度の指定を受け、研究テーマ「豊かな心をはぐくみ、未来への夢や希望をふくらませる子どもの育成～自分のよさや可能性を実感することができる道徳の時間の在り方～」を設定し、研究を進めてきました。今年度はまず「道徳の時間」の改善充実を図ることを中心に据え、児童の実態分析と指導方法の課題分析を行いました。そして学年ごとに「授業改善推進プラン」を作成し授業研究会を重ねてきました。以下3つの研究の手立てについて、取組みの成果を説明します。

課題意識をもたせる

- ・驚きや疑問が生じるような補助資料の提示
 - ・困惑が生じるような問題場面の追体験
- 主体的、意欲的な学習参加を促すことができた。

小集団による話し合い活動を設定する

- ・短時間で、全員が自分の思いや考えを表現
 - ・友達の考えを聞くことで多様な価値観を知り、自分との異同に気付く
 - ・初めにもっていた自分の考えを見直したり、広げたり深めたりすることができた。
 - ・友達との交流の大切さや助け合うことの意義に気付く
- 望ましい人間関係の育成が期待できる。

発問を工夫する

- ・資料中の登場人物に共感させる発問
- ・子どもの思考の流れに即した発問
- ・自分のよさや可能性に気付かせるのに有効であった。



<道徳教育研究中間発表会>

昨年11月に「道徳教育研究中間発表会」を行いました。来年度の「本発表会」に向け、更に研究を進めて参ります。

平成20、21年度、小野町が、国立教育政策研究所生徒指導研究センターにおける生徒指導総合連携推進事業の指定を受け、小野町教育委員会の指導のもと、小野中学校を指定事業推進校として、地域の関係諸団体、保護者、幼・小・中・高校との連携を踏まえ、本事業を展開してきました。本事業のねらいは、地域、家庭、学校等関係機関が一体となって、地域のネットワークを踏まえ、児童生徒の健全育成を図ることです。なお、具体的な取組み概要（抜粋）は次の通りです。

推進委員会を設置し、小野町における事業の総称を、『笑顔とがんばりの町「おのまちっ子”スマイル”プラン』』と称し地域への周知を図った。

町内小学校5・6年生、全中学生及びその保護者を対象に意識調査を実施し、課題改善に向け児童生徒を対象とした「おのまちっ子～5つの宣言～」保護者や地域住民を対象とした「おのまちっ子～子どもをはぐくむ5つの宣言～」の提言を行った。また、提言を啓発リーフレットとして配付したり、啓発ポスターとして町内に掲示したりして、地域での実践を呼びかけてきた。

町PTA組織と共催し、教育講演会を開催した。昨年度は、児童生徒の日々の学校生活の充実の視点から、「わかる授業づくり」をテーマに、幼・小・中・高校、及び、地域の方々を対象に2回、本年度は、家庭教育の在り方や、親・地域住民としての子どもたちへの関わり方をテーマに、保護者や地域住民、教職員を対象に1回開催した。

幼・小・中・高校で連携しあった授業研究会の開催や、小・中、PTA組織、地域の諸団体と連携した河川清掃等のボランティア活動、あいさつ運動等連携を踏まえた取組みの推進を図ってきた。

連携推進により事後のアンケート調査での規範意識も高まっており、これまでの実践を踏まえ、指定終了後も取組みの継続を工夫したいと考えています。



郡山市の実践

学校支援地域本部事業

郡山市では、今年度より西田中学校区（小・中学校合わせて六校）をモデル地区として事業を推進しています。

事業を進めるにあたり、学校と地域が共にメリットを感じるためにはどう進めたらよいか、地域内で話し合いをもちました。その結果、学校が本来に必要なとしている支援、地域の生きがいづくりにつながるような支援に絞ってスタンスをとり、絞りこむことになりました。

現在、各学校では、学校図書整備を中心としたボランティア支援が行われ、徐々に子どもたちの学校図書利用率が高まっている状況にあります。また、ボランティアの方々も、公民館司書や中学校司書補から積極的に蔵書の修理や整理の仕方について学び、とても意欲的に活動しています。

今後は、学校図書支援の活動を契機に支援の輪が広がる、様々な支援活動が行われ、事業となるよう、さらに検討を進めます。

証をすすめていきます。いよいよ来年度から



<ボランティアによる配架作業補助の様子>

三春町の実践

三春町では、西部に位置する岩江地区の岩江小学校・岩江中学校を対象に平成二十一年度から本事業に取り組みしています。

この地区は、二十年ほど前から急激に人口が増加した地区で、新たに転入してきた住民と従前からの地区民によって幅広い分野に精通する人々があり、色々な形で学校支援がされてきています。

小学校の学習ボランティアの協力で子どもたちは、様々な体験ができました。また、中学校の部活動の校外指導や英語の授業にボランティアを活用したり、ボランティアとの共同作業による資源回収や環境整備をしたりするなど、成果が実を結んでいます。

平成二十二年度も事業を継続し、潜在している地域の人が有している貴重な知識、能力を引き出し支援の内容を充実していく予定です。



<ボランティアとの資源回収作業の様子>

福島県教育委員会学校教育功労者表彰

郡山市立金透小学校長 遠藤 育夫

この度、福島県教育委員会より学校教育功労者表彰の栄に浴し、身に余る光栄と大変恐縮しております。初任地は、今はなき檜原小学校金山分校でした。私一人の分校で、二年生を合せて五名の子どものことと苦闘したことをつい昨日のことのように覚えております。その後、縁あつてつづの小学校と二つの教育行政機関に勤務することができました。三十数年勤務する生活の振り返つてみますと、思ひ出されるのは、子どもたちの素敵な笑顔と自分の拙い授業等々であり、先輩や喜びや苦しみを共にした多くの先輩や意欲に満ちた後輩等に恵まれたりあります。心より感謝いたします。今回の受賞に恥じぬよう子どもたちのために精一杯頑張りたいと考えております。

田村市立船引小学校長 二輪 幹治

この度、福島県教育委員会より学校教育功労者表彰の栄に浴させていただき、誠にありがとうございます。身余る光栄と恐縮しております。浅学非才の身として、誠実に教育活動に励んでまいりました。これまで、保護者や地域の皆様のおかげと心から御礼を申し上げます。昭和四十七年四月に残雪の中、南津八の伊南小学校で教職に行くと、以来十一年、南小学校で教職に就いて、この間、本勤に未熟でしたが、多くの私を温かく指導いただき、ありがとうございました。お導きくださいました。何となく、この指導の支えに、励んでまいりました。感謝の気持ちを込めて、この度、この栄に浴し、身に余る光栄と大変恐縮しております。初任地は、今はなき檜原小学校金山分校でした。私一人の分校で、二年生を合せて五名の子どものことと苦闘したことをつい昨日のことのように覚えております。その後、縁あつてつづの小学校と二つの教育行政機関に勤務することができました。三十数年勤務する生活の振り返つてみますと、思ひ出されるのは、子どもたちの素敵な笑顔と自分の拙い授業等々であり、先輩や喜びや苦しみを共にした多くの先輩や意欲に満ちた後輩等に恵まれたりあります。心より感謝いたします。今回の受賞に恥じぬよう子どもたちのために精一杯頑張りたいと考えております。

各種表彰（敬称略）

- 文部科学大臣表彰 一月末日現在
 - 地方教育功労者表彰 三春町教育委員会委員長 深谷 信吾
- 優秀教員表彰
 - 郡山市立芳山小学校教諭 安達 和良
 - 須賀川市立第二中学校養護教諭 大木三千恵
 - 田村市立船引中学校教諭 室井 辰生
 - 福島県立石川養護学校養護教諭 景山 祐子
- 社会教育功労者表彰
 - 福島県市町村社会教育委員長連絡協議会顧問 青木千代美
 - 郡山市男女共同参画審議会委員 元郡山市視聴覚教育研究会理事 元郡山市教育・学研公室事務局長 三瓶 良三
- 優良PTA表彰
 - 須賀川市立阿武隈小学校父母と教師の会 渡邊 徹
- 福島県教育委員会表彰
 - 元田村市教育委員会委員長 須賀川市立第三小学校教諭 欣之
 - 須賀川市立仁井田小学校教諭 孝明
 - 須賀川市立立井田小学校教諭 一彦
 - 玉川村立泉中学校教諭 上澤 史子
 - 福島県立安積高等学校教諭 直哉
- 社会教育関係功績顕著な施設
 - 郡山市立橋本地区公民館
 - 須賀川市西袋公民館
 - 須賀川市保健関係功労顕著な団体・施設 郡山市立田母神小学校
- 教育・文化関係表彰
 - 郡山市総合芸術展運営委員 皆川政一郎

特別功績者・児童生徒（団体の部）

- 第七十六回NHK全国学校音楽コンクール全国コンクール 郡山市立郡山第二中学校合唱部 金賞
- 全日本合唱コンクール全国大会 金賞 文部科学大臣賞
- 福島県立安積黎明高等学校合唱団
- 福島県教職員研究論文表彰
 - 入選 福島県立石川養護学校教諭 秋元 良弘
 - 奨励賞 郡山市立郡山第一中学校（団体） 玉川村立玉川第一小学校教諭 吉田 相康
 - 郡山市立上伊豆島小学校教諭 吉田 英俊
- 第六十回福島県学校関係緑化コンクール
 - 学校林等活動の部 福島民報社社長賞 知事賞 古殿町立大久田小学校
 - 学校環境緑化の部 知事賞 福島民報社社長賞 石川町立南山形小学校
 - 福島県学校関係緑化コンクール 特別賞 古殿町立大久田小学校
- 平成二十一年度学校歯科保健優良校表彰
 - 最優秀賞 田村市立石森小学校
 - 優秀賞 須賀川市立立白方小学校
 - 石川町立中合第一小学校
 - 石川町立中合第二小学校
 - 浅川町立山白石小学校
 - 須賀川市立長沼小学校
- 平成二十一年度学校給食優良団体・功労者表彰
 - 優良団体 天栄村学校給食センター
 - 功労者 鏡石町立鏡石中学校 主任栄養技師 菊地 博子
 - 石川町立野木沢小学校 主任主査兼調理員 鈴木千代子

総務社会教育課（総務担当）より

給与の口座振込については、これを希望する職員の出金口座の振込先を提出していただく必要があります。給与の口座振込（変更）申請書は、必ず必要の提出をお願いします。各様式は、必ず新式で提出をお願いします。各様式は、必ず新式で提出をお願いします。紙ベースで利用したい場合は、当所までご連絡ください。また、結婚等による氏名変更の場合は、マスター修正後に口座の名義変更を行ってください。さらには、今度で登録口座の変更は年2回と決められていますが、この1月から毎月登録内容の変更ができるようになります。前月の登録内容等に変更や訂正がある場合は、前月の20日までに申出書の提出をお願いします。

学校教育課（管理担当）より

教職員目標管理制度について

目標管理制度は、教職員一人一人が自校の学業目標を踏まえた自己目標を設定し、その達成状況を自己評価しながら、職務遂行能力の向上を図るものであり、適正な自己目標を設定することが極めて重要です。

自己目標設定の手順

教職員が学校目標の策定に参画する。学校目標との整合性に留意し、行動水準例に示されている標準的な能力にふさわしい具体的な自己目標を設定する。校長等の指導的言葉を通して自己目標について検討し、納得の上で設定する。校長との面談を通して、自己目標の特性に沿った適正なレベルの自己目標を納得の上で申告する。